

ネットの情報もデータ放送で シンプルで高度な連携システム



「ネット上の情報をテレビで簡単に共有することができたら…」。富士通ネットワークソリューションズ(株)(神奈川・川崎市、田村篤夫社長、以下FNETS)が提案する「データ放送連携システム」の出発点は、地上デジタル放送開始前夜に語られた「デジタルデバイドの解消」を実現することにあった。そのFNETSシステムを活用し、(株)遠野テレビ(岩手・遠野市)はケーブルテレビ局ならではの親切・丁寧な情報提供が可能なデータ放送を構築した。

大庭広和氏 FNETSソリューション開発本部 ビジネス推進統括部 商品企画部(左)と
中平和孝氏 同アプリケーション開発統括部 ソフトウェア開発部

随所に見せる高い技術力

FNETSの「データ放送連携システム」は、非常にシンプルなコンセプトに基づいた構成になっており、データ放送入力者にとってコンテンツ収集や入力作業において大幅な省力化が実現できる。さらに視聴者からみれば、ネット情報を簡単にテレビで見られるとあって、一石二鳥だ。「ほとんどの自治体がHPを開設しています。それをいかにケーブルテレビに有効活用するかを考えました」(大庭広和氏)。

システム構成は、インターネットに掲載された情報をCMS(コンテンツ・マネージメント・システム)で収集し、本システムを経由して(株)メディアキャスト(東京・渋谷区、杉本孝浩社長)製「DataCaster suite (データキャスタースイート)」に転送、データ放送として表示させる仕組み。

一見すると単純な仕組みだが、性能は極めて高い。その特長として挙げられるのが、まず「親和性の高さ」。システム上、重要な位置に配置されているCMSだが、ここは他社製品でも柔軟に対応可能。

無論、CMS「WebコアAdvanced」(富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ製)を組み込むことで高度なパフォーマンス(正確なスケジューリングなど)が実現されるのも事実だが、「一般的なXMLファイルであればそのまま使用でき、そうでなければカスタマイズで対応できる」(中平和孝氏)という。

情報を取得するHPサイトや抽出ポイントの変更も、プログラムを組みなおすのではなく、設定の変更だけで対応できるため、柔軟性が高い。つまり情報抽出先の設定が容易であり、ネット上の情報を簡単にデータ放送コンテンツへと転用できるわけだ。

視聴者参加型も視野に

インターネットに限らず、ケータイサイトなどからの情報取得も可能。当然、データ放送専用の情報の手入力にも対応。承認作業や著作権、放送倫理上の問題などをクリアできれば、あらゆるネット上の情報を「DataCaster suite」へ送り、データ放送に転用できる仕組みとなっている。

基本的にはネット情報を転用するため、各自治体などのHP運用担当者がそのままデータ放送入力者となり、気軽にデータ放

送を開始できるのは大きな利点。なおHP更新からデータ放送反映までのロスは数分程度で、途中でミスに気がついた場合などは反映を停止することも

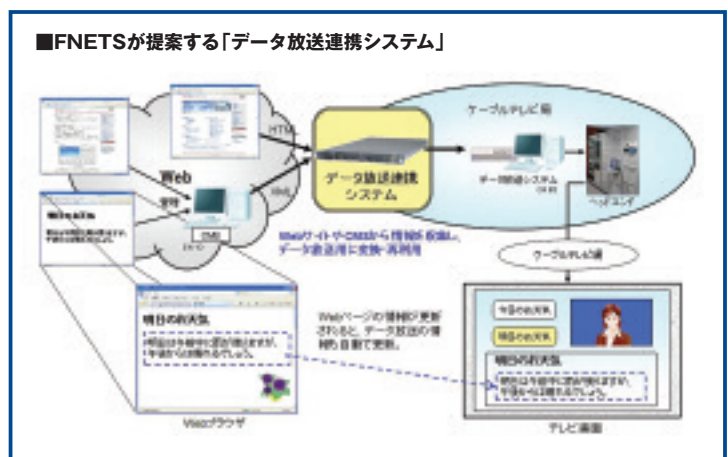
可能だ。

気になるのは表示デザインだが、この点は事前の設定で対応。抽出先の文字数や写真点数に応じて最適なテンプレートを選択し、単なるテキストの羅列ではなく、あくまでデータ放送として利用しやすいデザインでアウトプットされる。「DataCaster suite」の持つ多彩なテンプレート集とコンテンツ構築ツール、そしてFNETSの技術対応力が示される機能だ。

将来的には、その高い情報収集能力を生かして視聴者参加型データ放送の推進も視野に入れている。実現すれば「地域密着」の新たな形を指し示すことになりそうだ。

【お問い合わせ先】

富士通ネットワークソリューションズ(株)
ソリューション開発本部 ビジネス推進統括部
〒210-8571 川崎市川崎区日進町7番地1
川崎日進町ビルディング
TEL.044-210-6540
http://jp.fujitsu.com/fnets/



FNETSシステムでデータ放送を開始 情報の中枢を担う遠野テレビ データ放送でデジタルデバイド解消



佐々木浩章氏 (株)遠野テレビ 企画総務グループ マネージャー

遠野テレビはまさに遠野市が推進してきた情報共有インフラを実現し、今では遠野市の中枢を担っていると思います。実際、2005年の遠野市と宮守村の合併時には、情報の共有を図るため市・村の話題をより多く放送し、視聴者から非常に喜ばれました。

が必要とする情報を多数データ放送で提供できます。

利用してもらう仕掛けとして、エンターテイメント性も重視しました。そこでJC-dataからコンテンツ提供を受け、占いや健康レシピのコンテンツも提供しています。また、利用してもらうにはデザインが非常に大切です。トップ画面の背景や文字の大きさはもちろん、時計表示など、細部まで徹底的に凝りました。これも100以上のテンプレートを有している「DataCaster suite」だから実現できたと思います。なによりデータ放送にチャレンジできたのはFNETSとの協力関係があったからこそだと思います。

データ放送を開始してから1カ月余りたちましたが、加入者からの評判は上々です。

行政との強固なつながりのもと、充実したデータ放送が完成できました。ただ、これはあくまでも出発点です。これからは商工会や商店街の皆様と協力し、地域産業の活性化が図れるような情報提供を行っていただきたいと思います。

これからも遠野テレビを見てもらい、利用してもらい、その結果として利用者の生活が潤い、最終的に地域の活性化へとつながる…。そんな善循環型にしていきたいと思わずし、データ放送はその強力なツールになると思います。

市民が主役のケーブルテレビ

遠野テレビは“市民と創るテレビ”“市民が主役”がコンセプトで、遠野市長でもある本田敏秋社長も日々、「質の高い情報をタイミング良く提供すること」を強く求めます。

遠野テレビは第三セクターであるメリットを生かし、遠野市の情報を日々提供するのはもちろん、市議会や予算委員会など全てをライブ中継しています。これらの中継は市民から高い評価を得ており、視聴率が非常に良いですね。

遠野市の基幹産業は農業です。遠野市では、岩手県、そしてJAと一緒にアグリステーション遠野(AST)を組成し、農業者育成と販売チャンネルの多様化などを進めています。ASTは全国で見ても非常にユニークな活動で、私たちも地域産業活性化に向け、『AST通信』という番組を共同制作しています。番組は、ASTスタッフが自ら企画・撮影したもので、関係者や視聴者からも非常に喜ばれています。

市民とのつながりも非常に強いのが遠野テレビの特長です。私たちは開局時から市民アナウンサーを起用しています。これまで60人もの市民アナウンサーが誕生するなど非常に親しまれています。ユニークなところでは、市民の有志と一緒に『無限勇者カグライガー』というヒーロードラマを制作しましたね。

地域の活性化を目指して

コミュニティチャンネルのデジタル化を考えた上、データ放送は必要不可欠でした。

アナログ放送でも行政情報や農業情報などを静止画で提供していましたが、これでは必要な時に必要とする人に届けることが難しく、情報が行き届かない課題がありました。タイミング良く提供するにはデータ放送は適していますし、誰もが平等に情報を得られるようにするにはテレビが最適であり、デジタルデバイド解消にうってつけのサービスであると決断しました。

データ放送でもコミチャン同様、多様な情報を提供したいと考えており、FNETSの「データ放送連携システム」が最適と判断しました。

「データ放送連携システム」は、インターネットに掲載された情報をCMSで収集し、システムを経由して「DataCaster suite」に転送、データ放送として表示させることが可能であるほか、遠方からでもネットを経由してデータ入力&更新が可能です。そのため、自社での更新作業はほとんどありませんし、県からのお知らせ、JR東日本からの鉄道遅延情報をはじめ、遠野市に設置されている気象ロボットの情報や定点カメラで撮影した画像などもデータ放送に提供ができ、市民



遠野テレビが提供しているデータ放送画面。トップ画面もかわいしく、親しみがわくデザインが特長的